



テオティワカン、「月のピラミッド」と「太陽のピラミッド」(手前)

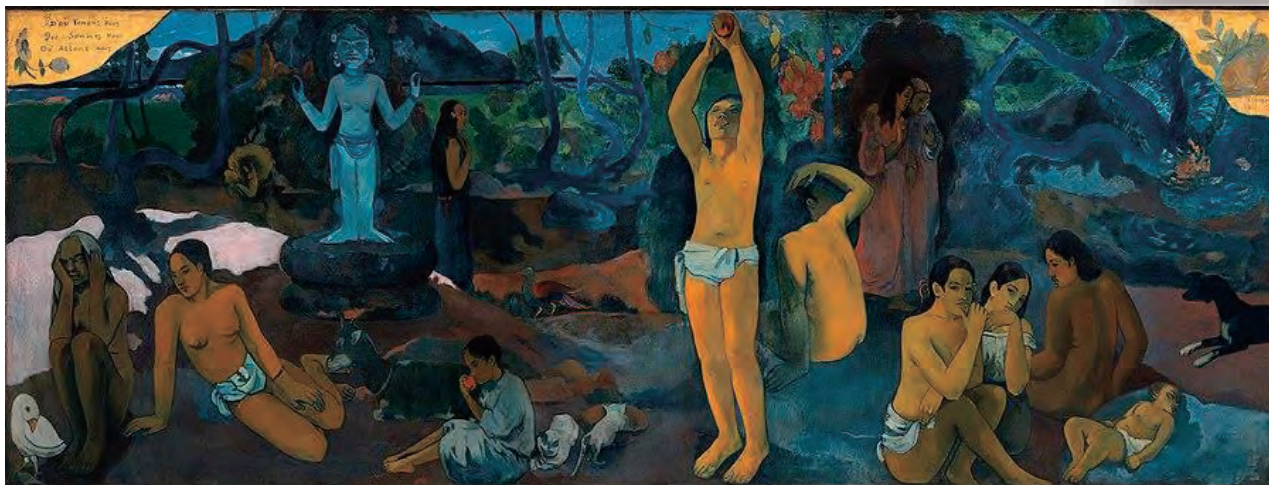
メキシコ古代史に学ぶ

我々はどこから来たのか？

我々は何者なのか？

我々はどこへ行くのか？

私達は思う、なぜ自分が今の時代に、なぜ日本で生きているのか？自分が何者か？これから私達はどう生きていくのだろうか？かつてゴーンガンも考えたそんな課題を、私も20代からメキシコでピラミッドを掘り、アメリカの大学で人類学を学び、繰り返し自問してきた。古代文明の宝庫であるメキシコでの39年の体験談と共に、ヒトに特異な文明史と現代、そして未来像について語る。



2018年1月18日(木)4:10~5:40pm 愛知県立大学(S201)

講義後、生協にて簡単な懇親会を行います(問い合わせ:学務課、加藤まで)

編集後記

今年度の『共生の文化研究』をお送りいたします。今号は谷口智子所員/研究所運営委員とし、編集作業補佐の学務課職員の加藤佳久さん、本学大学院生の岡崎雅子さんとの共同作業で刊行いたしました。今年度から、研究所所員、共同研究者のみでなく、所員の許可を得た本学大学院国際文化研究科の大学院生も投稿できるようになりました。多文化共生研究所所長の杉山三郎先生が定年退官されるということで、最終講義などの様子も盛り込んであります。

巨匠が定年退官で去ろうとしている中で、若い芽がむくむくと出ようとしています。季節の移り変わりのように、研究者や研究動向も常に変化していき、全く同じものはありません。去る者に対する寂しい感情と、新しい息吹にワクワクします。

ここ数年多文化共生研究所を裏方として支えてくださった学務課職員、加藤佳久さんも 2018 年 3 月末で職場が変わることになりました。これも寂しいですが、ご栄転を祈念します。ありがとうございました。

2018 年 3 月

愛知県立大学多文化研究所・所員

谷口智子（外国語学部ヨーロッパ学科・准教授）